

※ただし、上限額あり

(4) 類似事業の有無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	169,478	
合計	169,478	

決定額の考え方

国からの補助額が示されていないことから、令和3年度と同額を計上します。財源については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略

③地域公共交通体系など生活サービスの再編・効率化

(地域公共交通の維持と再編)

- ・ 地方鉄道の維持確保のため、安全運行に必要な設備投資等を支援するとともに、バス交通の維持確保のため、広域幹線バス路線や市町村自主運行バスの運行を支援する。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	広域バス路線運行維持奨励金
補助事業者（団体）	乗合バス事業者
補助事業の概要	乗合バス事業者が、密を回避し、路線・便数を維持する運行に対して、奨励金により支援する
補助率・補助単価等	定額・ 定率 ・その他（例：人件費相当額） （内容）経常費用と経常収益の差額に次の率を乗じた額 地域間幹線系統・準地域間幹線系統 3 / 20 連絡系統 1 / 6 ※ただし、上限額あり （理由）奨励金交付要綱5条による
補助効果	乗合バス事業者の密を回避し、路線・便数を維持した運行を支援することができる。
終期の設定	終期令和4年度 （理由）コロナによる影響を注視しつつ、事業継続の必要性を検討する。

(事業目標)

緊急事態宣言に伴う外出自粛等により移動需要が減少し、厳しい経営状況に置かれている乗合バス事業者が、密を回避し、路線・便数を維持して運行することに対して、奨励金により支援し、地域住民の生活の移動手段を確保する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	R2年度	R3年度	R4年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R)	
①						%
路線バスは、運転手のやりくりなどにより運行本数等を適宜見直すことがあるため、一概に指標を設定することは適当でない。						
②						%

	H30年度	R元年度	R2年度
補助金交付実績	千円	千円	千円

(これまでの取組内容と成果)

令和 2 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和 3 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和 4 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	広域路線の維持確保につながるため、事業の必要性が高い。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり（単年度目標 100%達成かつ他に特筆できる要素あり） 2：期待どおりの成果あり（単年度目標 100%達成） 1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標 50～100%） 0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標 50%未満）</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 コロナ禍の収束が見通せない中で、乗合バス事業者の経営状況は大変厳しく、バス路線の減便・廃止の恐れがあり、県民の移動サービス縮小とともに車内密度の増につながるおそれがある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか コロナによる影響を注視しつつ、必要な対策を検討する。</p>
--